

関西から
文化力
POWER OF
CULTURE

第105回
同志社グリーンクラブ
定期演奏会

▽ GleeClub

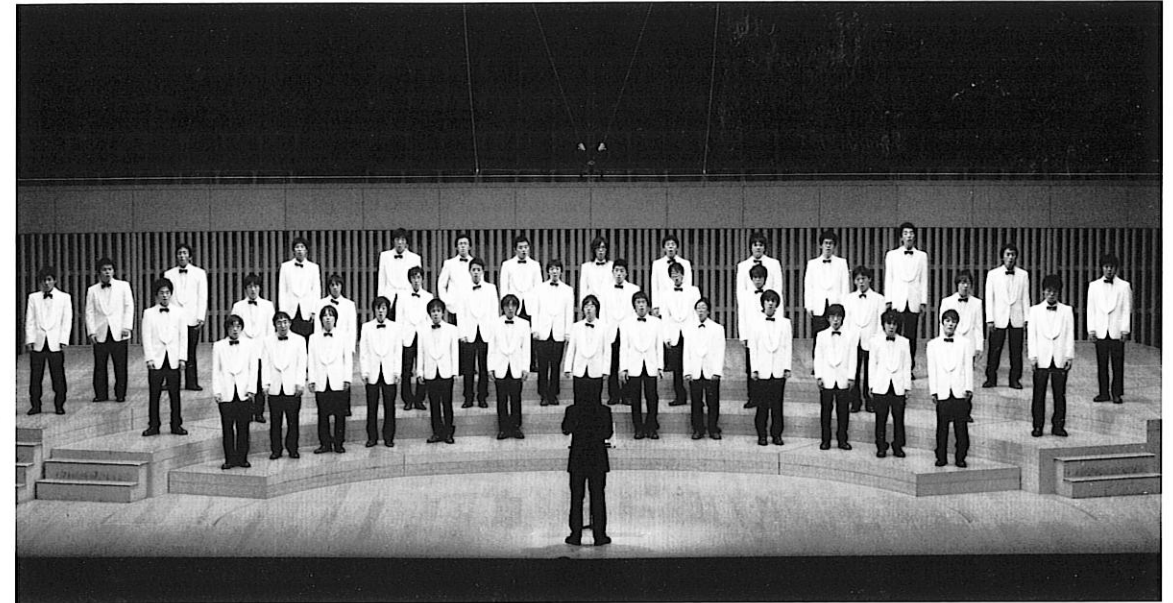
2009年12月12日(土) 開演 17:30
文化パーク城陽プラムホール

Doshisha College Song

Words by W. M. Vorles
Music by Carl Wilhelm

*One Purpose, Doshisha, thy name
Doth signify one lofty aim;
To train thy sons in heart and hand
To live for God and Native Land.
Dear Alma Mater, sons of thine
Shall be as branches to the vine;
Tho' through the world we wander far and wide,
Still in our hearts thy precepts shall abide!*

*Still broader than our land of birth,
We've learned the oneness of our Earth;
Still higher than self-love we find
The love and service of mankind.
Dear Alma Mater, sons of thine
Would strive to live the life divine;
That we may with increasing years have stood
For God, for Doshisha, and Brotherhood!*



御挨拶

本日は、第105回同志社グリークラブ定期演奏会に御来場いただき、誠にありがとうございます。同志社グリークラブは今年で創部105周年を迎える伝統のあるクラブであり、様々なものを諸先輩方から引継ぎ、活動しております。しかし、今日まで活動をする中で様々な危機がありました。この危機を乗り越えられたのは私たちの歌を聴き、応援して下さった皆様のおかげです。この文化パルク城陽プラムホールで今宵も皆様とクラブの理念である「聴衆と一体となった音楽」を目指し演奏させていただきます。

さて、今年は2年ぶりに出場しました関西合唱コンクールに出場し金賞を受賞いたしました。これも、我々の歌を聴いてくださっている皆様の応援があってこそそのものだと考えています。これからも御支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、ご指導くださいました諸先生方、また日頃から現役を見守ってくださっている諸先輩方をはじめ、この演奏会に関わりご協力いただきました方々、そして何よりこの場に御支障くださいました皆様に心より御礼申し上げます。

同志社グリークラブ幹事長 小田和司

Doshisha College Song

作詞：W.M.Vories
作曲：Carl Wilhelm

よくしる、ついで
ついで

1st Stage 北欧の風景

Kaunehin maa

Kuutamolla

Kiitavi aatos

SALVE REGINA

Och jungfrun hon går i ringen.

作曲：Leevi Madetoja他
指揮：伊東恵司

2nd Stage 男声合唱組曲『月に寄せる歌』

- I. 新月
- II. 影
- III. 短日
- IV. 月から見た地球
- V. 珠数工の夜
- VI. 童話の月
- VII. 月光の谿

作詩：北原白秋
作曲：多田武彦
指揮：鈴木隆介
(第77代学生指揮者)

—INTERMISSION—

3rd Stage British Folk Songs

The British Grenadiers

Believe me, if all those endearing young charms

The last Rose of Summer

Long long ago

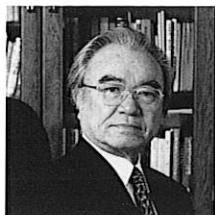
Auld Lang Syne

編曲：北川 昇
指揮：伊東恵司

4th Stage 初心のうた 男声合唱とピアノのための

- I 初心のうた
- II 自由さのため
- III とむらいのあとは
- IV でなおすうた
- V 泉のうた

詩：木島 始
作曲：信長 貴富
指揮：鈴木隆介
(第77代学生指揮者)
ピアノ：松井 萌



学校法人同志社
総長
大谷 寛

第105回同志社グリークラブ定期演奏会が、文化パルク城陽プラムホールにおいて盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げます。

ご案内の通り、同志社グリークラブは、1904（明治38）年の創部以来の歴史と伝統を有し、常に精力的に合唱活動を行ってきた同志社きっての名門クラブであります。

今年度もすでに、58回目の東西四大学合唱演奏会への参加や信州大学とのジョイントコンサートの開催など積極的な演奏活動を展開しているところです。さらに、学内の様々な式典においても素晴らしい演奏を披露しており、今や、同志社大学にとって欠かすことのできない存在であり、その活動に総長として心から敬意を表する次第です。

本日の演奏会においても、創部105年の歴史と伝統に裏打ちされた力強い歌声が、ご来場の皆様のご期待に十分に答えるものになると確信しております。

今宵の合唱が、ご来場の皆様の希望に満ちた未来へのプレリュードとなることを心からお祈りいたします。



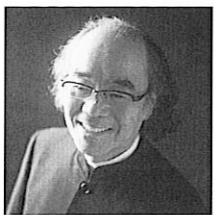
同志社大学長
八田 英二

このたび、第105回同志社グリークラブ定期演奏会が盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げます。

同志社グリークラブは今年で創部105年目を迎える、長い歴史と伝統を持ったクラブです。また、同志社大学を代表するクラブとしても、様々な場において活躍しています。最近では、第58回東西四大学合唱演奏会への参加、信州大学とのジョイントコンサートの開催など、精力的な活動を行っております。

もちろん、このような輝かしい活動の裏には、日々の地道な努力が必要不可欠です。本日は、日頃の成果を存分に発揮し、素晴らしい歌声を披露していただきたいと思います。そして、聴衆の皆様に夢や感動をお届けすることができれば、これに勝る喜びはございません。ご来場いただきました皆様には、部員の意気込みと情熱が伝われば幸いに存じます。

最後となりましたが、お忙しい中ご来場いただきました観客の皆様をはじめ、常日頃より部員の活動を支えていただいております諸先輩ならびに関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。本日の演奏会の成功と同志社グリークラブの益々の発展を心より祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。



全日本合唱連盟理事長
第31代学生指揮者
浅井 敬壹

同志社グリークラブがコンクールに完全復活してくれた。本当に嬉しい。札幌での全国大会、素晴らしい演奏を聴かせてくれた。

最近のコンクールで、審査員の1位の票が完全（バラバラ）に分かれると、「すべての団体の演奏が素晴らしかったからだ」と多くの審査員はおっしゃる。でも私は、そうは思わない。本当に圧倒的に、聴く人すべてに感動を与える演奏であれば、審査員全員が1位をつけられるはずだ。私が、同グリに入部した理由は、以前から言い続けているが、私が高校3年生だった年の全国大会で、同グリが、河原林先輩指揮により、審査員15人（現在は9人）全員から1位を獲得されたからだ。

伝統の重みの下に生きなければならぬ現役諸君は、本当に大変だと思う。しかしその道は、君が選んだのだ。

OB会が、現役を精一杯支援してくださっている。でもしかし、現役は現役である。最長で4年間、4年間しか歌えない。4年間しかないのだ。同志社グリークラブにしかない、魅力。どうかそれを創り出してほしい。その魅力に惹かれて日本中から、大学男声合唱団と言えば同志社グリークラブ、大学に入るなら同志社大学、いや、大学というより、同グリに入りたい、と言われるクラブにしてほしい。

我等、同志社グリークラブが生んだ、今、絶好調の伊東恵司先生のもと、歴史に残る名演を期待します。



同志社グリークラブ顧問
岸 基史

本日は、第105回同志社グリークラブ定期演奏会にご来場いただき、誠にありがとうございます。

同志社グリークラブが2005年に創部101年目を迎えたことは記憶に新しいですが、その歴史的瞬間を目の当たりにした現役は今のクラブには一人もいないということを思うと、月日の流れの早いことを実感せざるを得ません。しかし、時が経ち、人が入れ替わっても、同志社グリークラブの根幹に脈々と受け継がれている「聴衆と一体となった音楽」を目指し、積極的に活動する精神は不変のものです。105年という長い伝統も、その精神にのっとり、現役が一年一年活動することの積み重ねによって得たものであると思います。

もちろん、その伝統は、現役の努力だけでなく、ご指導いただいている先生方やOBをはじめとする様々な人たちのご援助、そして、演奏を聴きに来てくださった聴衆の皆様の声援によって支えられています。

今宵、ご来場の皆様には、この一年の集大成である現役の演奏を、心ゆくまでお楽しみいただきたいと思います。そして、今後の同志社グリークラブへの一層のご支援をいただきますよう、よろしくお願いいたします。



同志社グリークラブOB会
理事長
森島 敏夫

105年目のChange

第105回定期演奏会の開催を心からお祝い申し上げます。

同志社グリークラブは5年前に創立100周年を迎えました。早いもので本年は第105回の定期演奏会です。今宵オンステージするグリーンメンに、現役もOBも熱く燃えた100周年記念行事を知るメンバーは、誰一人としていません。また、ここ数年団員数は漸減傾向が続き、今宵のステージでは30名余となりました。

もちろんグリーンメンの合唱に懸ける熱い気持ちに変わりはありません。メンバー全員で出場することを決めた関西合唱コンクール大学Aグループでは1位金賞を受賞し、11月に札幌で開催された全日本合唱コンクールに出場することができました。そのチャレンジ精神に若者らしい壮快な心意気を感じます。

政治・経済・社会では変化を望む声が大きくなり、今年は世界が日本が大きくChangeしました。創部105年目から、同志社グリーは音楽と友情を謳歌する豊かな時代に再びChangeしたと語られるよう、今宵ステージに立つ諸君の飛躍を心から期待します。





技術顧問 指揮者 伊東 恵司 (いとう けいし)

京都市在住。90年同志社大学を卒業（ポストモダン芸術論を専攻）。同志社グリークラブ第58代学生指揮者として福永陽一郎に師事する。90年以降「淀川混声合唱団」「葡萄の樹」等で合唱指揮者として活躍。99-08までに出場した全日本合唱コンクールでは「なにわコラリアーズ」の10年連続金賞を始め、複数団体を率い13個の金賞と6個の銀賞を受賞。宝塚国際室内合唱コンクール20周年記念大会では海外の団体をおさえ、グランプリを獲得している。現在は、全国各地で合唱指導を引き受けるほか、「アルティ声楽アンサンブルフェスティバル」の企画運営、市民参加型合唱劇のプロデュース、子どもたちにわらべ歌を教えるために「みやこキッズハーモニー」を創設する等、「合唱」に関する多彩な仕掛けを行なっている。大阪府・京都府合唱連盟理事、日本合唱指揮者協会関西支部事務局次長、21世紀の合唱を考える合唱人集団「音楽樹」会員。

昨今の大学事情の中で「同志社グリークラブ」も私の現役時代（20年前ですが）の3分の1の人数に落ち込んでおります。全体で30人ということですが、この数がどういうことかということ、1年生がおらず4年生が就職活動に出ている春合宿～初夏にかけては10名少し（各パート2名か3名）で取り組まざるを得ないという人数です。2校地離れており5、6講時まで必須授業が入っている状況では、練習でディバイドしたパートが揃わないことすら普通にありました。ましてや経験者が少なく、楽譜が読めなくても「先輩の声につられて」ついつい大きな声が出ていたグリークラブですから、大声に紛れることが出来ない、そもそもその先輩がいない…、というような悪循環のスパイラルに嵌まり込んでしまう中で、なかなかかつてのような活気を作れません。私自身も「こうあってほしい」という気持ちと、「現状の中では、焦らずこのように順番にステップを踏んでいくことが必要」という気持ちが入り混じり、困難を極めた前期の練習では葛藤と苦悩が続きました。

しかしながら考えようかもしれません。上手くいくときには何をやっても上手く行きますから真の苦労を知りません。こういった状況の困難さは、それでも真剣に取り組むことによるのみ部員の魂を鍛え、再生に向けてのモチベーションを蓄える格好の機会なのかもしれません。一年を振り返った時、慣れない言葉や音階をものともせず合唱に興味を持ってくれた一年生をはじめ、よく努力してくれました。2年ぶりに出場した関西コンクールを奇跡的？に突破し（前期の様子ではとても難しい状態でしたので、そこからの努力の結果）、『全日本合唱コンクール』で演奏出来たことも「頑張ったことの象徴」としてクラブの財産になってくれるでしょう。

ときどき学生を見て思うのですが、我々はどうしても今の学生と私たちの学生時代のことを比べてしまいます。学生時代の思い出が豊かであればあるほど、そうなるのはやむを得ないことでしょう。しかし、学生の現状や過去との違いを理解した上で、嘆きやため息ではなく、また気を遣って放置するのでもなく、真剣な関わりを心掛けていかねばならないのではないのでしょうか。彼らの「現実」に寄り添いながらも、本当に大切なことだけは「全身全霊で伝えること」、「伝えるだけでなく粘り強く励ましていくこと」が大切だと思います。

ぜひ今宵の彼らの「カ一杯の演奏」に気持ちのこもった激励とご声援をいただきますようよろしくお願いいたします。



ピアノ 松井 萌 (まつい もえ)

京都市立音楽高等学校、同志社女子大学卒業。新島賞受賞。京都市立芸術大学大学院修士課程修了。仙田緑、鶴田裕子、古新薫、阿部裕之、谷千鶴、松田康子の各氏に師事。2001年京都ピアノコンクール本選D部門銅賞、第二回大阪国際音楽コンクールピアノ部門高等学校の部奨励賞、第11回日本クラシック音楽コンクール兵庫地区本選高校の部ピアノ部門好演賞、第7回ショパンの会〈祝・21世紀〉コンクールピアノ演奏部門Cクラス奨励賞受賞。第4回かやぶき音楽堂デュオコンクール第2位。2009年青山音楽記念館にてソロ・リサイタルを開催。京都音楽家クラブ、日本音楽表現学会会員。京都橋大学TA、平安女学院大学嘱託講師（ピアノ）。



ヴォイストレーナー 北村 敏則 (きたむら としのり)

京都市立芸術大学声楽専攻卒業。同大学院修了後ウィーン留学。音楽学部賞及び大学院賞受賞。第2回日本シューベルト協会（J.S.G）国際歌曲コンクール第1位及び聴衆審査特別賞受賞。第6回ボルツァーノ（北イタリア）歌曲コンクール第1位及びアダ・ヴェルバ賞受賞。第1回青山音楽賞、京都市芸術新人賞受賞。現在、京都市立芸術大学講師、関西二期会会員、日本シューベルト協会会員。



ヴォイストレーナー 石原 祐介 (いしはら ゆうすけ)

私立崇徳高校在学中にグリークラブに入部、合唱を始める。京都産業大学在学中はグリークラブに所属し、学生指揮者を務めた。その後、京都市立芸術大学、同大学院音楽研究科声楽専攻を卒業、修了。卒業時に音楽学部賞を受賞。世界合唱連合(IFCM)主催 World Youth Choir（世界青少年合唱団）1997～1999日本代表メンバー。第21回飯塚新人音楽コンクール声楽部門第2位。声楽を故難井誠、山口はやとの各氏に、合唱指揮を故吉村信良氏に師事。現在、神戸市混声合唱団に所属。



第77代学生指揮者 鈴木 隆介 (すずき りゅうすけ)

1987年6月13日生まれ、愛知県岡崎市出身。県立岡崎高校コーラス部で2年間を過ごした後、同志社大学文学部美学芸術学科に入学。2008年2月に当団の第77代学生指揮者に就任。

自ら歌って例を示すことで歌い手の感覚的な理解を促すという練習方法を取る。様々な場面で団内の集中力や緊張感を高め、空気を引き締める役割を担うが、その不可抗力によって生じる後輩達(ないし同回生達)との間の必要以上の距離に戸惑いを感じつつ、それでも穏やかな日々を眠たげに過ごしている。体操担当内政を兼任(自称)。

北欧の風景

指揮：伊東 恵 司

北欧（広義の意味でのスカンジナビア）の音楽には、いわゆる西洋音楽のアカデミズムの系譜や、確立された様式の中にはおさまりきらない特有の表情があるように思います。神話の伝承や民謡にも由来する音楽的抑揚やリズムに加え、旋律や和声には自然環境にも背景を持つような透明感があり、それらは特に歌や合唱作品を通して現れているように思います。合唱団のことを考えても、ヘルシンキ大学男声合唱団、オルフェイドレンガー、スウェーデン放送合唱団、オスロ室内合唱団、…等々、伝統のある世界トップレベルの合唱団がひしめき、文化的社会的存在としての『合唱』の存在感が際立っているようにも思うのです。そして当然のこととして大作曲家による多数の合唱作品、あるいは合唱作品を中心にした作曲家の存在もあり、男声合唱のレパートリーにもこと欠きません。

同志社グリーンクラブではしばらくトルミスを中心とする「エストニアの作品」を取りあげることが多かったですが、今日は隣のフィンランドを始め、スウェーデン、ノルウェーの作品を並べてみました。「祖国への愛国心」「美しい自然と心情の重なり」「ひざまづくような深い祈り」…これらは北欧の合唱作品によく見受けられるテーマであると思います。音の背景にある文化様式、人間観について学び、オーロラや白夜を想像しながら練習してきた北欧のサウンドをお聴き下さい。

(伊東恵司)

Kaunehin maa (美しき国) —Leevi Madetoja 1887–1947<フィンランド>

自然に恵まれた祖国への誇りと愛情を力強く歌い上げる。

Kuutamolla (月光のもと) —Jean Sibelius 1865–1957<フィンランド>

冴え渡る月の美しさと静けさを讃えるシベリウスの傑作。

Kiitävi aatos (私は感謝した) —Selim Palmgren 1878–1951<フィンランド>

自然の柔和さと恋人への思いを美しい和声に重ね合わせた作品。

SALVE REGINA (めでたし、女王よ) —Knut Nystedt 1915–<ノルウェー>

現代の作曲家ニーステッドによる透明感ある男声作品。

Och jungfrun hon går i ringen. (乙女は輪に加わる) —Hugo Alfvén 1872–1960<スウェーデン>

舞踏のリズムに乗せて乙女とのやりとりを楽しく描いた民謡のアレンジ。

Kaunehin maa

Maa kaunehin maa on pohjoinen,
missä metsiä pelot pelkää,
karu, paatinen, kylmä on pinta sen,
ei lannista aura sen selkää,
mut uhmaten hongat harmaat ain
sen taivahan ääriä saartaa,
ja yllä korpien vaikenevain,
sen pilvissä kotkat kaartaa.

Maa kaunehin maa on metsien,
maa kaukaisen uinuvan haaveen.
Se sitoo mieleemme hiljaisen
laill' arvoituksen ja aaveen;
se kutsuu, se kiehtoo, se vaatii luo,
sen puissa on loihtua, taikaa,
ja synkän salon kankahat nuo,
ne laulua kummaa kaikaa.

美しき国

北方の美しい国
森が畏怖される地
不毛で、心も凍る、冷たい見かけをしている
山の尾根にも鋤が入らない
しかし灰色の世界に抗うように
大空の果てを覆っている
そして深い森の上空で
鷲が雲を背に曲線を描く

森の中の美しい国
遥かなるまどろみの幻想の地
この地が紡ぐ思いは静かで
秩序立ち、謎に満ち、霊的である
誘い、惹きつけ、訴えかける
魔術的で身震いを起こす
そしてこの薄暗い森の土地で
全て歌に魅了される

Kuutamolla

Rannalla yksin istun, mieli on kaihoinen.
Etäistä maata tuolla yhäti silmäilen.
Siellähän asut, armas,
Kultani kallihin.
Silta jos sinne veisi, luoksesi rientäisin.
Kirkasna kuuhut loistaa,
pilvistä pilkistää,
laineilla loiskii, tanssii.Vedessä väräjää,
Valosta luotu on silta, siintävä hohtoinen.
Jospa mun viedä voisit
rannalle toiveitten!
Vaan ei ne Kuuttaren sillat
kannata kulkijaa,
Niihin ken luottaa, astuu,
aaltohon haudan saa.

Kiitävi aatos

Kaunis on aamu ja tuores on ilma,
tuoksuvi metsä ja kukkiva maa.
Kiitävi aatos kaipuun siivin
kauaksi matkojen taa.

Nuori on luonto ja nuor' olen itse,
rintani on kuin kuohuva vuo.
Kiitävi aatos kaipuun siivin
kauaksi impeni luo.

SALVE REGINA

Salve Regina, mater misericordiae;
vita, dulcedo et spes nostra, salve.
Ad te clamamus
exules filii Hevae.
Ad te suspiramus gementes et flentes
in hac lacrimarum valle.
Eia ergo, advocata nostra, illos tuos
misericordes oculos ad nos converte.
Et Iesum, benedictum fructum ventris tui,
nobis post hoc exsilium ostende.
O clemens, o pia, o dulcis Virgo Maria.

Och jungfrun hon går i ringen.

Och jungfrun hon går i ringen med rödan gullband.
Det binder hon om sin kärastes arm.
Men kära min lilla jungfru, knyt inte så hårdt.
Jag ämnar ej att rymma bort.
Och jungfrun hon går och lossar på rödan gullband.
Så hastigt den skälmen åt skogen då sprang.
Da sköto de efter honom med femton gevär.
Och vill ni mig något, så ha ni mig här.

月光のもと

岸辺にひとり立ち、心は孤独です
彼方の国にわたしはずっと目をむけている
あちらに 愛しい人が住む
最も大切な恋人が
橋がそちらへ届くなら
あなたのもとへ急ぐでしょう
清澄に月は光り、雲間から顔をのぞかす
波間にしぶき上げ、踊り、水中でふるえる
光から橋が建つ 青くもえる
あなたがわたしをつれていってくれるなら
望みのかなう あの岸辺へ！
月の乙女の橋ならば
渡る旅人はいないでしょう
だれが 踏みだすのを まかせるでしょう
波間の墓場へいくことを

私は感謝した

朝は美しく、空気が新鮮だ
私は森の香りと花の咲き乱れる大地の匂いとを嗅いだ
私は翼を失ったことに感謝した
はるか遠くまで旅してきたものだ

世界は若々しく、私もまた若いのだ
胸は泡立つ川の流れのよう
私は翼を失ったことに感謝した
はるか遠くに、私の乙女は生きているのだ
(訳：前川裕)

めでたし、女王よ

めでたし、女王よ 憐れみ深いおん母よ
我らの生命、喜び、希望よ、栄えあれ
追放の身であるイヴの子たちであるかれらは
あなたに向かって叫ぶ
あなたに向かって嘆き
泣いてため息をつく
いざ今や、我らの代弁者よ
憐れみのまなざしを我に向けたまえ
あなたの胎内の祝福された果実であるイエズスを
このさすらいの後に示し給え
おお慈悲深く、おお愛に満ち、おお優しい処女マリアよ

乙女は輪に加わる

乙女は輪に加わる、赤みがかった、黄金色のリボンで
それを結ぶ、彼女は愛する人の腕のまわりに
でもいとしい私の可愛い娘さん、そんなに強く結ばないでくれ
ぼくは逃げる気はないよ
それで乙女は黄金色のリボンをゆるめた
すると急いで、その悪童は森へ飛び込んだ
その時彼らは、彼の後ろから、十五ちょうどのライフルで撃った
あなたが欲するなら、ここでわたしをつかまえられる

男声合唱組曲『月に寄せる歌』

指揮：鈴木隆介

関西コンクール直前の練習の際、「コンクールの舞台に立っている時間はほんの一瞬に過ぎない。その一瞬のために費やした膨大な時間と体力を想って本番に臨むべし。誰よりもまず自分達自身が満足出来る演奏のために、すなわち、元を取れ。」というお言葉をヴォイストレーナーの石原先生から頂きました。その力強い声援に後押しされ、私達今年の同志社グリーンクラブは無事、北海道で行われた全国コンクールへと駒を進めることが出来ました。涙脆い私は結果発表の直後、ホールの客席で一人ひっそりと嬉し涙をこぼしたりして…冷やかし魔の後輩達に目撃されていなければ良いのですが。さて、実際のところ、学業を志す身分である私達がクラブに捧げている時間と体力は少しばかり過剰であるように思います。現在は一週間のうち4日+αの練習を行っておりますが、それを毎週、毎月、毎年と繰り返し行っているわけで…具体的な数字にしてみれば、確かにどうかして元を取りたくなるような結果がはじき出されます。また、クラブを続けていく上では沢山の困難とも向き合わなければなりません。わずかばかりの幸福な出来事はその中に埋もれてしまうのではないかとさえ感じます。それでも結果として私達は歌い続けてきました。今日まで諦めることなく、どんな時も練習場に向かいました。私達を突き動かすその理由とは一体どこにあるのでしょうか。忙しさは考える時間をも奪ってゆきますが、最後の定期演奏会を迎える前に少しだけ、歌うということについて私なりに想いを寄せておきたいと思います。

第4ステージの頁へと続きます。拙い文章ですが、後程またお付き合い頂ければ幸いです。

I. 新月

断崖の松の木に

月ほそくかかりたり、

ほそき月、

金無垢の月。

入海の波間にも

また、月はしづきゆく、

沈沈と

金の鈎。

金無垢のするどさよ

絹漉の雨ののち、

しんじつに

走りいづるその蒼さ。

島黒く、海黒き

真の闇、

舟ひとつすすみゆく、

そのうへにほそき月。

なにかわかぬ、

魚族は目をさまし、

鈴虫は一心に鳴きしきる。

度の極まり。

闇の夜は、断崖も、松の木も、

かげわかず、ゆく舟も見えわかず、

ただ光るほそき月、

金無垢のほそき月。

II. 影

月のひかりはそよかぜの

風並遠く楽しみぬ。

月のひかりはさざなみに

さらに満しぬ、金の亀。

放て、心を、へうべうと、

空と水とのなまめきに。

はかなかれども雲に鳥、

誰ぞや運けく影を追う。

III. 短日

新月が出てゐるなど

わたしは硝子扉を透かして見た。

感冒の一日はさみしかったよ。

めづらしい赤い夕焼のあとで、

急にひえびえとして来た松ヶ枝、

あの透明な薄あかりの空こそ、

幼い昔の幻燈画を蘇らせて、

今またわたしを山の向うに誘ほうとするのか、

ああ、童女のほそい蛾眉が出て居る。

IV. 月から見た地球

月から見た地球は、円かな、

紫の光であった、

深いにほひの。

わたしは立ってゐた、海の渚に。

地球こそは夜空に

をさなかつた、生れたばかりで。

大きく、のぼってゐた、地球は。

その肩に空気が燃えた。

雲が別れた。

潮鳴を、わたしは、草木と

火を噴く山の地動を聴いた。

人の呼吸を。

わたしは夢みてゐたのか、

紫のその光を、

わが東に。

いや、すでに知ってゐたのだ。地球人が

早くも神を求めてゐたのを、

また削ってゐたのを。

V. 珠数工の夜

青い月夜の七分がた、

影が持つてる、紺のかげ。

ああ、ひたすら、

珠数のたま磨る響がする。

空に息づく椎わか葉。

白う幅だつ墓地の露地。

ああ、かすかに、

珠数のたま磨る円鏡

現ならぬか、蒸しつつも

面なまめく石の霧。

ああ、ひとすぢ、

珠数のたま磨る窓あかり。

飛ぶは蠅、金の縁。

月は五重の塔のうへ。

ああ、ひたすら、

珠数のたま磨る人が居る。

VI. 童話の月

大きな黄色の月、

童話の中の月、

おお、浜辺へ出て、手をあげて呼ぶのは誰だ。

吠えてる、吠えてる。

おお、をどつてる。

をさない愛着、白いけもの。

おお、あの空だ。海の向うの向うだ。

煙がひとすぢあがつてゐる。

VII. 月光の谿

夜の月映に流るるは

すずき秋の縹雲。

(月こそ神よ、

まどかにて。)

ひまらや杉の葉は織く、

とすればそよぐそのこずゑ。

(月こそ神よ、

まどかにて。)

現ならぬか、観るものの

青みやすらふ寂びと光沢。

(月こそ神よ、

まどかにて。)

灯あしの芯の黄に燃えて、

みながら湿める谿の戸や。

(月こそ神よ、

まどかにて。)

童よねむれ、虫の音の

降るかにすだくやはらぎを。

(月こそ神よ、

まどかにて。)

湧き来る狭霧、むらさきの

地球はかえる、土の息。

(月こそ神よ、

まどかにて。)

かの月映に流るるは

豊けき秋の縹雲

(月こそ神よ、

まどかにて。)

British Folk Songs

指揮：伊東恵司

「The British Grenadiers」

17世紀から19世紀にかけてイギリス軍の擲弾（てきだん）兵部隊が使った行進曲。日本でも有名なマーチの一つで、現在はテレビCMの音楽としても有名。

「Believe me, if all those endearing young charms」

アイルランド民謡。日本語詞では「春の日の花と輝く」として知られている。原語詞では、いつまでも変わらず愛し続けようと、誠の愛を誓う歌である。

「The last Rose of Summer」

アイルランド民謡。日本語詞では「庭の千草」として知られている。アイルランドの民謡詩人トマス・ムーアの詩に作曲されている（作曲はムーア自身、他者と諸説ある）。

「Long long ago」

イングランド民謡。日本では近藤朔風の訳詞による文部省唱歌「久しき昔」として知られている。イギリスの音楽家トマス・ヘインズ・ベイリーの作曲。

「Auld Lang Syne」

スコットランド民謡。日本では「蛍の光」としてあまりにも有名である。「Auld Lang Syne」はスコットランド語であり、英訳では「Old long since」や「Times gone by」とされる。

一昨年の「American Folk Songs」に続いて、編曲委嘱をしていただき光栄に思う。同志社グリークラブの皆さん、指揮・技術顧問の伊東恵司先生には心から感謝する次第である。

(北川 昇)

編曲者 北川 昇 (きたがわ のぼる)



1983年神戸生まれ。兵庫県立長田高等学校、大阪音楽大学を経て、同大学院音楽研究科作曲研究室修了。作曲を下村正彦、千原英喜の各氏に師事。

高校では長田高校音楽部に在籍し、テノールパートリーダーを務める。新潟アジア文化祭Asian Youth Choir 2004のオーディションに合格、テノールメンバーとして参加。ジャパニューズ合唱団等で合唱の研鑽を積む。

近作に、女声合唱のための「きょうはきょうきょう」、無伴奏男声合唱組曲「あの日たち」、混声合唱のための「かなうた第1集」、混声合唱組曲「うたふやうにゆつくりと……」など。

アルティ声楽アンサンブルフェスティバル実行委員、Ensemble Radiance主宰。また、全国各地にアンサンブルトレーナーとして招聘され、自作品を中心に合唱指導を行っている。

The British Grenadiers

Some talk of Alexander,
and some of Hercules,
Of Hector and Lysander,
and such great names as these;
But of all the world's brave heroes
there's none that can compare,
With a tow row row row row row,
To the British Grenadiers.

Those heroes of antiquity
Ne'er saw a cannon ball,
Or knew the force of powder
To slay their foes withal;
But our brave boys do know it,
And banish all their fears,
With a tow row row row row row,
For the British Grenadiers.

Then let us fill a bumper,
And drink a health to those
Who carry caps and pouches,
And wear the louped clothes;
May they and their commanders,
Live happy all their years,
With a tow row row row row row,
For the British Grenadiers.

Believe me, if all those endearing young charms

Believe me, if all those endearing young charms,
Which I gaze on so fondly today,
Were to change by tomorrow and fleet in my arms,
Like fairy gifts, fading away.
Thou wouldst still be adored as this moment thou art,
Let thy loveliness fade as it will,
And around the dear ruin, each wish of my heart,
Would entwine itself verdantly still.

It is not while beauty and youth are thine own,
And thy cheeks unprofaned by a tear,
That the fervor and faith of a soul can be known,
To which time will but make thee more dear.
No, the heart that has truly loved never forgets,
But as truly loves on to the close,
As the sunflower turns to her God when he sets
The same look which she turned when he rose.

The last Rose of Summer

'Tis the last rose of summer,
Left blooming alone;
All her lovely companions
Are faded and gone;
No flower of her kindred,
No rosebud is nigh,
To reflect back her blushes,
Or give sigh for sigh!

I'll not leave thee, thou lone one,
To pine on the stem;
Since the lovely are sleeping,
Go sleep thou with them,
Thus kindly I scatter
Thy leaves o'er the bed
Where thy mates of the garden
Lie scentless and dead.

So soon may I follow,
When friendships decay,
And from Love's shining circle
The gems drop away!
When true hearts lie withered,
And fond ones are flown,
Oh! who would inhabit
This bleak world alone?

Long long ago

Tell me the tales that to me were so dear,
Long long ago, long long ago;
Sing me the songs I delighted to hear
Long long ago, long ago.
Now you are come all my grief is removed,
Let me forget that so long you have roved;
Let me believe that you love as you loved,
Long long ago, long ago

Do you remember the path where we met,
Long long ago, long long ago.
Ah yes, you told me you ne'er would forget,
Long long ago, long ago.
Then to all others my smile you prefer'd,
Love when you spoke gave a charm to each word;
Still my heart treasures the praises I heard,
Long long ago, long ago.

Though by your kindness my fond hopes were rais'd,
Long long ago, long long ago;
You by more eloquent lips have been prais'd,
Long long ago, long ago.
But by long absence your truth has been tried,
Still to your accents I listen with pride,
Blest as I was when I sat by your side,
Long long ago, long ago.

Auld Lang Syne

Should auld acquaintance be forgot,
And never brought to mind?
Should auld acquaintance be forgot,
And days of auld lang syne?

*For auld lang syne, my dear,
For auld lang syne,
We'll take a cup o' kindness yet,
For auld lang syne.

We twa hae paid'd in the burn,
Frae morning sun till dine;
But seas between us braid hae roar'd,
Sin' auld lang syne.
(*Chorus)

We twa hae run about the braes,
An' pou'd the gowans fine;
We've wander'd mony a weary foot,
Sin' auld lang syne.
(*Chorus)

And here's a hand, my trusty fere,
And g'ies a hand o' thine;
We'll tak' a right gude willie waught,
For auld lang syne.
(*Chorus)

And surely ye'll be your pint stoup,
And surely I'll be mine,
We'll take a cup of kindness yet,
For auld lang syne.
(*Chorus)

初心のうた 男声合唱とピアノのための

指揮：鈴木隆介
ピアノ：松井 萌

私は歌うことが好きです。その思いは合唱を始めた高校の頃からずっと変わりません。ただ、なぜ歌うのかという理由については自分の中でずっと答えが出ないまま、ひたすらに練習を繰り返す日々が続きました。顧問の先生に導かれながら、発声などの技術力は少しずつ向上してゆきます。やがては人前に立って歌うようになり、いくつもの場数を踏む中で表現するという、伝えるということを知りました。高校最後のコンクールを終え、大学生になり、同志社グリーンクラブに入ったことでさらに広く深い合唱の世界を知ることになりました。歌いたいという気持ちは強くなり、一方で歌い続ける理由は未だに明らかにならず、クラブから心が離れそうになったこともありましたが、それでも私は歌が好きでした。理由など見つからなくても、ただ歌うことが出来るだけで幸せだったのです。いつしか学生指揮者という立場になって、自分以外の歌い手を相手にしながら歌と向き合うことになりました。歌い手一人一人の個性に触れてゆくうちに、自分自身の歌い手としての姿が少しずつ見えるようになってきました。歌と共に歩んできた過去を振り返ったときにやっと気付いた一つの答え、それはすなわち、歌うことは成長することであるということでした。歌を通じて仲間と出会い、共に困難を乗り越え、感動を分かち合いました。歌はいつでも私を支え、励まし、勇気付けてくれていました。歌うことで私は成長し、一つずつ出来ることを増やしていきます。そして、出来ることならいつでも誰かのことを想い、その心を動かす歌を歌っていたいと思います。成長すること、それこそが私が歌う理由だと、今なら答えることが出来ます。

本日、舞台上上がる団員一人一人にはそれぞれの歌う理由があります。客席の皆様の心にその思いの一つ一つを届けることが出来たら…きっと、良い演奏になるはずです。どうか私達の心の歌をお聴きください。

I 初心のうた

どこを とおろうと
ほしを みあげ
ひとり ひとり つきとめよう
まちや くにの しくみを
ころしや つくり かりたてる
くにと ひとの しくみを

どこを とおろうと
ほしを みあげ
ひとつ ひとつ まきなおそう
まちや むらで はぐるまを
かくれた かぎを さがしあて
ゆめを うごかす はぐるまを

どこを とおろうと
ほしを みあげ
ひとり ひとり つきとめよう
わたしたちの みらいを
アジアの かがみに うつる
わたしたちの みらいを

II 自由さのため

酔いつぶされるな
空のめまいに
海のめまいに
泳ぎきる訓練で

筋肉が燃え
こころ落ち着けば
肌の微風が
芯までこちよい

独り飛び
独り潜って
手ごわい敵である
自己に耳傾けよう

III とむらいのあとは

たおれたひとの
たましいが
わたせなかったもの
かぞえよう

めあきめくらに
そらのいろ
きわどい あいずかわす
みちあんない

たおれたひとの
たましいが
うたえなかったもの
ゆめみよう

銃よりひとを
しびれさす
ひきがね ひけなくなる
歌のこと

[]内は作曲されていません

IV でなおすうた

あるものは野戦の地から
わたしたちは帰還した

古墳の秘密を
解読する
ノートへ

あるものは被爆の地から
わたしたちは帰還した

毒で変質する
細胞とらえる
レンズへ

あるものは疎開の地から
わたしたちは帰還した

下宿の畳へ
古本の押花へ
若すぎる遺書へ

決意の死から
生きのびかたへ
銃把から
ペン軸へ
冬から
春へ

長かった凍結地から
芽生えふく風へ

軍靴の駆足から
無理強いられた挙手の礼から
そのまったくの無我夢中から

尊敬の微笑みへ
知識のよろこばしい取得へ
そしてふたりの愛のむつまじさへ

わたしたちは帰還した はずだった

V 泉のうた

とおくまで 歩ける足が
ひとり
ひとり

ひとり ひとり
ひとり 歩ける足が
ひろい 道をつくりだす
踊れる おどれる
ひろい 道があるといいな

ランランラン ランランラン

ひそかに つぼみは 考える
どちらに 向かおうかと 考える
大きな 太陽が 夢を きめる
ひそかに つぼみは 感じてる

ランランラン ランランラン

どこまでも ^{しみず} 清水をもとめ
ひとり
ひとり

ひとり 清水をもとめ
未来へ とおく はるばると
じぶんの じぶんの
泉を さがし 手に入れよう

同志社グリークラブ

顧問 岸 基史

技術顧問 伊東 恵司

テノールヴォイストレーナー 北村 敏則

ベースヴォイストレーナー 石原 祐介

幹事長 小田 和司	ステージマネージャー 生駒 実	学生指揮者 鈴木 隆介
副幹事長 西田 拓也	中村 透	学生副指揮者 森崎 公平
内政 池田 慧	会計 竹中悠一郎	トップテノールパートリーダー 池田 慧
尾中 亮太	中西 重人	セカンドテノールパートリーダー 尾中 亮太
外政(東西四連) 築山 和平	主務 松本 啓志	バリトンパートリーダー 西田 拓也
松下 夏海	全同志社メサイア実行委員 中村 敏宏	ベースパートリーダー 藤瀬 雅章
外政(京都) 岩田 智宏	中村 透	
中村 敏宏	資料担当 祝原 直正	
外政(大阪兵庫) 生駒 実	演奏旅行担当 生駒 実	
中村 透	ホームページ担当 祝原 直正	

TOP TENOR

池田 慧 工4・旭丘	祝原 直正 工3・三島	白石 和之 法1・千種
岩田 智宏 法4・大垣東	中村 透 社3・川西明峰	田中 賢一 法1・鶯谷
竹中悠一郎 工4・宮崎西	松本 啓志 経2・花園	脇田 光輝 経1・広島大学附属福山

SECOND TENOR

築山 和平 経4・近畿大学附属東広島	加藤 祐樹 商2・近江兄弟社	渡辺 飛 経1・須磨学園
松下 夏海 商3・福岡大学附属大濠	吉田 啓昭 理工2・龍野	
尾中 亮太 工3・木本	大田 駿介 経1・洛南	

BARITONE

生駒 実 工4・山城	中西 重人 工3・洛南	池田 恭平 法1・向陽橋香館
鈴木 隆介 文4・岡崎	西田 拓也 工3・青雲	川出正太郎 理工1・名古屋市立北
中村 敏宏 商3・足立学園	神谷 亮太 法2・名古屋市立向陽	

BASS

藤瀬 雅章 文4・西宇治	森崎 公平 文3・名古屋	花谷 周平 商1・自由学園高等科
原田 尚樹 商4・三原	川南 亮 経2・彦根東	村瀬 匡貴 文1・華陽フロンティア
小田 和司 工4・開明	藤井研二郎 経1・西城陽	

第105回同志社グリークラブ定期演奏会OB協賛芳名録

今回の定期演奏会の開催にあたり、下記の先輩方の協賛を頂きました。
誌上ではございますが、この場にて厚く御礼申し上げます。

昭24 長島 俊司	後藤 健夫	昭47 相川 義直
昭25 青山 宏	畑中 宣彦	昭48 鳩 秀成
昭26 真下喜二郎	岩木 六馬	木村雄二郎
福永 嘉彦	鈴木 謙介	昭50 新井 克次
昭27 都木 直文	田中 省一	昭51 河村 淳
中井 正和	昭40 竹上 一郎	昭52 山下 裕司
日下部吉彦	大熊 政次	高谷 博次
土肥 通夫	天田 祐	山本 英司
今西 政弘	川北 純二	岡田 正美
昭28 正木 康雄	渋谷 膺一	昭53 稲熊 裕之
昭29 鈴木 健三	岸本 修一	森島 敏夫
吉川悟一郎	山田 至孝	金森 久宙
野村 秀治	清水 昭彦	昭54 福澤 敬
昭30 山縣 達雄	昭41 小亀 豊	中山 篤
昭31 原 忠和	溝部 昭征	矢ヶ崎一之
中路 明	橋詰 崇史	大西 一夫
橘 守	滝沢 裕人	昭55 梶浦 義人
野村 忠	小室 泰司	昭56 今村 幸彦
菅野 弘	大原 康弘	増田 佳昭
昭32 湯浦 章	森田 恒孝	昭57 芦田 直幸
寒河江 正	小川 徹	昭59 鋒山 琢磨
昭33 南迫 卓一	影田 武道	須藤 彰治
昭34 尾崎 公昭	北村 徹男	昭60 河村 一良
新矢 起大	昭42 澁谷 和彦	山中 光
村橋 輝正	吉田 孝昭	昭62 梅村 雅彦
芳崎 榮治	栗山 昭男	昭63 梅田 隆司
浅田 隆	岩谷 誠之	平2 栗田 陽一
森田 秀夫	館 和道	佐々木昭憲
村中 裕	湯浅 康平	廣島 映一
昭35 砂原 和彌	山根 礪	平4 岸間 昭一
竹之内壽三	植松 康男	平6 福田 研二
昭36 山田 英二	昭43 川上 貴裕	谷本 啓
昭37 三宅 健司	神谷 洋司	平7 吉武 晃
昭38 田村 康浩	昭44 坂東 憲治	平8 平谷 有祐
幸田 長明	檜垣 康治	平15 山岡 洋平
二澤 進	小瀬 昉	平20 正川 勲
林田 慎也	松本 公郎	平21 辻 那由他
真野 光長	昭45 木下 徳弥	青木 和仁
昭39 松本 慎一	三好 照孝	嶋田 公典
山中 信與	昭46 小石伊久男	大阪クローバークラブ
井阪 紘	春成 博	
牧野 章造	大西 秀孝	

*尚、一切の関係上、掲載できなかった先輩方もおられます。
-21-

—同志社グリークラブ名誉顧問 遠藤彰先生に捧ぐ—

2009年7月11日 私たち同志社グリークラブの名誉顧問である遠藤彰先生がお亡くなりになりました。先生のことを胸に刻むため、ここに追悼の意を表明し、掲載させていただきます。



7月11日、名誉顧問で前OB会会長の遠藤彰先生は天国へ旅立たれました。7月14日、日本基督教団神戸教会にて告別式が営まれました。10年前の1999年6月30日に愛子夫人を天上に送られたと同じ教会です。

遠方より先生を慕い多くのOBが集まり歌声で送ることができました。葬儀を終えご出棺のとき、ご子息の胸に抱かれた先生のご遺影が、一緒に歌われるかのようにカレッジソングの歌声に向けられました。多くのグリーメンを励まされ、養われてきた、その慈愛に充ちた優しいまなざしです。

グリークラブ顧問・名誉顧問として、またOB会会長として我々を導いてくださった先生の天での歩みに平安と祝福がありますようにと祈り、天よりグリークラブに絶えざるまなざしを注いでいただきますようにとお願い申し上げます。

<遠藤彰先生 略歴>

1920年堺市に生まれる。大阪外国語学校（当時）ドイツ語科を経て、同志社大学文学部神学科（当時）を1942年に卒業。米国ユニオン神学校およびチュールリッヒ大学にて研究。神学部教授、神学部長、宗教部長、学校法人同志社理事等を歴任。1990年3月引退。1990年4月より7年間広島女学院院長・大学長・理事長を務める。

同志社グリークラブ第16代学生指揮者。1960年～1986年グリークラブ顧問。その後名誉顧問就任。1999年～2005年第9、10期OB会会長。

企業広告協賛一覧 [敬称略]

株式会社 大阪フォトサービス

株式会社 サウンドスタジオOKA

ハチ高原 角野山荘

西湖堂印刷株式会社

司屋 株式会社

株式会社 ふじまつ つぼ八 京阪三条店

ハウス食品株式会社

蓮池清志税理士事務所

株式会社 ベルコ

株式会社 まんしょう

株式会社 ミック

謝辞

この度は、第105回同志社グリークラブ定期演奏会の広告協賛にご協力賜り厚く御礼申し上げます。プログラムとともに企業広告を掲載させていただきます。今後とも同志社グリークラブをご支援いただきますようお願い申し上げます。

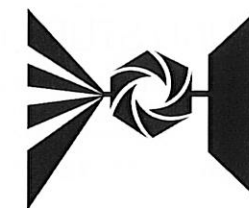
広告協賛企業の皆様方のますますのご発展とご健勝を心よりお祈り申し上げます。

きらめく瞬間を未来に伝えたい。

あなたのきらめくその一瞬を素敵にとらえる。

未来に残す素敵な記念写真をお届けするために、

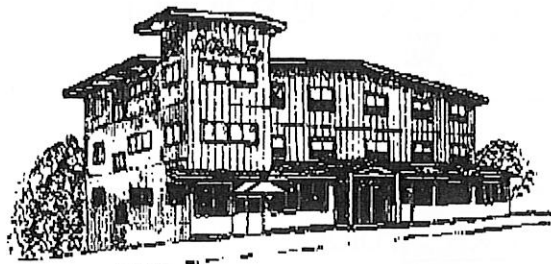
いつもいっしょうけんめいのお大阪フォトサービスです。



OSAKA PHOTO SERVICE
株式会社大阪フォトサービス

〒550-0023 大阪市西区千代崎2丁目20-9
TEL. 06-6581-7005 FAX. 06-6581-7033

<http://www.osakaphoto.co.jp/> E-mail:sales@osakaphoto.co.jp



氷ノ山・後山・那岐山国定公園／八千高原

角野山荘

林間学校
合宿
スキー

〒 667-1100 兵庫県養父市八千高原
TEL 079(667)8636 FAX 079(667)8522

URL <http://www4.ocn.ne.jp/~kadono>

スタッフ全員が二十代の楽しいお店です。貴方も私たちと楽しい時間を過ごしませんか？
毎日四時から七時まで、生ビール298円でご提供中！！
焼酎・泡盛・梅酒など160種類以上取りそろえております。
随時、ご予約お受けしております。お気軽にお電話下さい。



つぼ八 京阪三条店

〒 605-0009
京都府京都市東山区大橋町115番地 尚美ビル1F
電話番号：075-762-1110
営業時間：PM4:00～AM5:00

ステージが映える衣装

お一人お一人の動きに合わせてお創りする衣装。
指揮者の方、楽器の演奏等が楽しくなる服。
燕尾服・タキシード・リクルートスーツ・
ビジネススーツ、等、取り扱っております。

司屋株式会社

大阪市北区芝田1-6-8
Tel 06-6372-2420
阪急梅田駅茶屋町西出口北へすぐ

「私達は、居酒屋のおいしさを追求し、
居酒屋の楽しさを大切にし、
元気を提供します。」

京都市中京区丸太町通西洞院北東角
(府庁前交差点すぐ)
PM 5:00～AM 2:00 (L.O. AM 1:30)
TEL : 075-255-4415

居酒屋 萬正

<http://www.saikodo.com>

When
the slightest
difference
is important

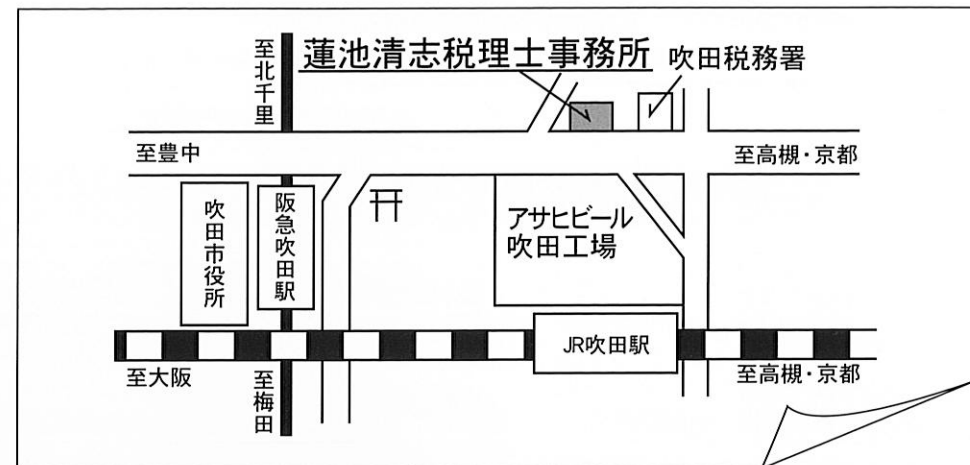
——— 比べてください、違いがわかるはずですよ

SAIKODO Printing Co., Ltd.
西湖堂印刷株式会社 ● 京都市下京区高倉通四條下ル ● TEL.075-351-9127 FAX.075-361-4096

◆お問い合わせ 075-351-9127(吉村)まで info@saikodo.com

蓮池 清志 税理士事務所

税理士 蓮池 清志
〒564-0082 大阪府吹田市片山町3-1-11
TEL 06(6389)5666
FAX 06(6330)6367



L et lena
produced by LENA FUJI

Aya na ture
presented by AYANA SAKAI

THE BELLCLASSIC
Group

ベルクラシックは、つながりという奇跡を永遠に慈しみ、
心からのホスピタリティをお約束します。

<http://www.bellclassic.co.jp>

ベルクラシック

今夜のために 明日のために
手カラかします。



おいさとやすらぎを
ハウス食品
housefoods.jp

医療・文化・環境への貢献

Medical

Culture Ecology

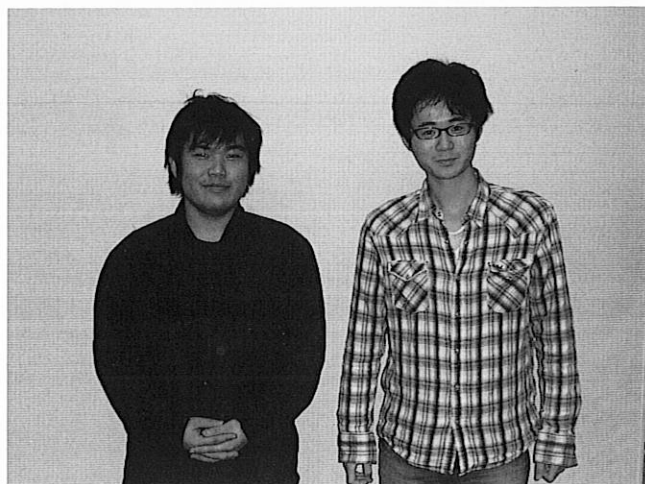
■ミックグループ 代表取締役 社長 木下邦男(昭和49年卒)

MIC 株式会社 ミック

MIC 美凯 美凯(大连)科技有限公司 MIC(DALIAN)CO.,LTD.

東京都新宿区新宿1-8-5 TEL:03-3350-1661

<http://www.mic.jp>



岩田智宏 (左)

本日はお忙しい中、私たちの演奏会に足をお運びいただき、誠にありがとうございます。皆様からアンケート等を通してご指導ご鞭撻いただいたおかげで、今年も定期演奏会を開催することができました。本日は、この一年の集大成を皆様にお届けいたします。

中村 透 (右)

本日は第105回同志社グリークラブ定期演奏会にお越し頂いて、誠にありがとうございます。

今年のパンフレットのデザインのように、色彩豊かな風景を我々の演奏によって再現したいと思います。

本日はお忙しい中ご来場下さいまして、誠にありがとうございます。最後になりましたが、このパンフレット製作にあたりまして、快く原稿をご執筆くださいました諸先生方、広告ならびに協賛を頂きました皆様方、無理を聞き入れて下さった西湖堂印刷の吉村社長、その他この日のためにご尽力下さいました全ての方々、そして何より本日ご来場頂きました全ての皆様に厚く御礼申し上げます。今後とも同志社グリークラブへのご支援、ご声援よろしくお願いたします。

2009年 師走 同志社グリークラブ一同

これからの演奏会予定

2009年 12月24日(木) 京都コンサートホール大ホール
第45回全同志社メサイア演奏会

2010年 2月13日(土) 同志社大学寒梅館ハーディーホール
第105期卒団生のためのフェアウェルコンサート

2010年 6月27日(日) 京都コンサートホール大ホール
第59回東西四大学合唱演奏会
同志社グリークラブ単独演奏指揮:伊東恵司
四大学合同演奏指揮:伊東恵司

2010年 12月19日(日) 同志社大学寒梅館ハーディーホール
第106回同志社グリークラブ定期演奏会

第105回同志社グリークラブ
定期演奏会パンフレット

2009年12月12日発行
発行:同志社グリークラブ
印刷:西湖堂印刷株式会社